

第3学年 道徳指導案

指導者 戸羽正和

I 主題名 くじけない心

資料名 まけるものか～野口英世（明るい心で どうとく③岩手県版 東京書籍）

II 主題について

1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

中学年の内容「1 主として自分自身に関すること」

(2) 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。

この段階においては、自分がやらなければならないことだけではなく、さらに自主性を発揮し、自分でやろうと決めたことに対しても積極的に取り組み、粘り強くやり遂げる精神を育てることが大切である。そのためには、あきらめずに取り組むことの意義や、今よりよくなりたいと願い、努力しようとする姿について考えを深めていくことが求められる。そのためには、教師の励ましや賞賛が一層重要になる。

2 主題、資料について

「自分でやろうと決めたこと」とは、与えられたことや自信がないことであっても、挑戦してみようとする意思を自己選択し、決定したことと捉える。自分で選択・決定したことであるからこそ、困難に直面しても、何とかして成し遂げたいという思いがわき起こり、工夫しながら最後まで努力し続けるものとする。本主題「くじけない心」とは、困難に直面した時、必ず乗り越えられると自分の可能性を信じたり他の人からの励ましなどに感謝したりしながら、より強くたくましく生きようとする心情であり、粘り強くやり遂げるために必要なことである。社会の仕組みや人間関係などの変化が激しく、これまで体験したことがないような自然災害も発生するような時代を迎え、様々な困難に直面することが考えられる。それだけに、くじけない心を持ち、自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる心情や態度を育てていくことは重要なことである。

本資料「まけるものか」は、「てんぼう」とからかわれた野口英世がお母さんの話を聞いて頑張り抜くという話である。からかわれて嫌な気持ちになることや母親の話を聞き頑張りようとした気持ちは子どもたちに共感的に理解されるであろうになってしまった話である。自分の弱い心に負けずに粘り強くやり遂げようという気持ちの大切さを感じ得る適切な資料である。

3 子どもについて

子どもたちは、これまで、学級活動で3年生のめあてや係の仕事を考えたり、体育や算数で新しく難しい活動に取り組んだりしている。これらの取り組みを通して係の仕事や学習など自分がやらなければならないことは、しっかり取り組むことの大切さを理解するとともに、難しい問題に直面しても最後まで粘り強く取り組もうとする態度も育っている。また、鉄棒では逆上がりができるようになるまで、昼休みに自主的に練習を行う姿から、自分でやろうと決めたことに粘り強く取り組む心情や態度が育ちつつあることも伺える。

しかし、言われなければ取り組まないでしまったり、簡単に済ませてしまおうとしたりする様子も見られる。これはつい安易な方向へ流されてしまったり、何とかなるだろうと妥協してしまったりする心の弱さ等が関係していると考えられる。また、教師や友達、家族励ましなど、他とのかかわらせ方の手立てが十分とは言えない状況も考えられる。

このような子どもたちに、あきらめそうになった時にくじけず、さらによりよい自分に高めるために努力し続けることの大切さを考えさせ、やり抜いた心地よさを味わわせることは意義深いことである。

よって、本主題のもと、つらく苦しいことがあっても、よりよくなりたいという願いや人々の支えを感じ、くじけずに最後まで粘り強く取り組もうとする心情を育てたい。

道徳の時間で高めていきたい力は、「自分の考えを相手にしっかり伝えることができること」、「相手の考えの意図を理解しようと最後まで聞くこと」、「自分の考えを深めたり広げたりすること」と考える。何よりも学習に粘り強く取り組もうとする意欲である。

4 復興教育（3つの教育的価値）との関連

(1) 生命や心について【いきる】「⑤【やり抜く強さ】」とのかかわり

つらくて困難な状況であっても自分の夢や希望の達成に向けて最後までやり抜き生きようとするたくましさ育てたい。

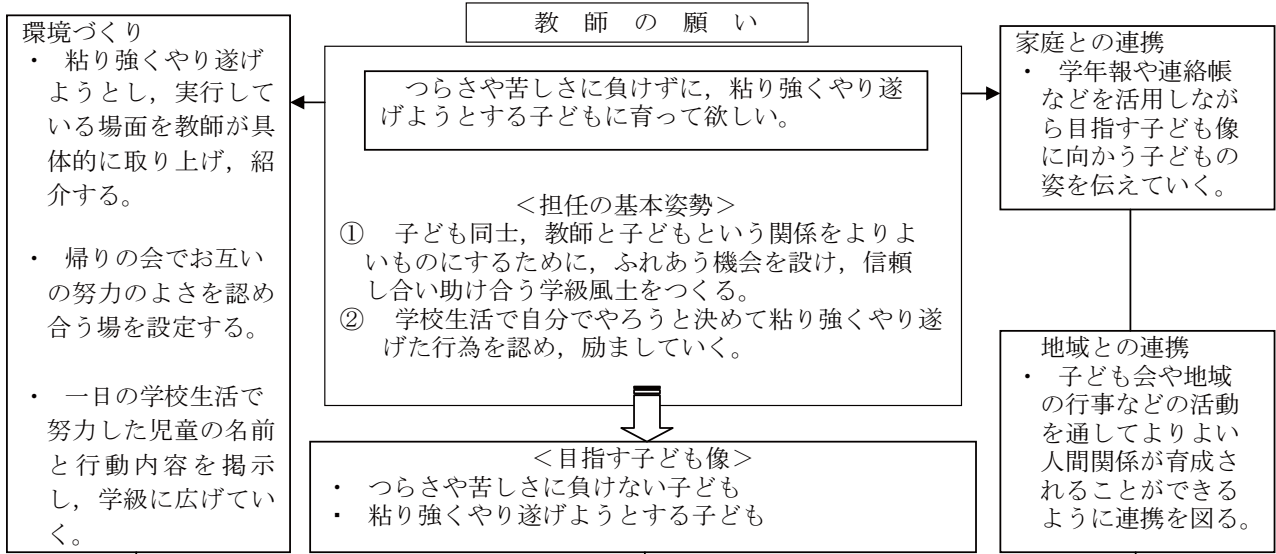
(2) 人や地域について【かかわる】「⑨【仲間や地域の人々とのつながり】」とのかかわり

つらくて困難な状況の中で、くじけずに粘り強くやり抜くことに、励まし支えてくる家族や周りの人のありがたさを実感させたい。

Ⅲ 指導の構想（関連と発展）

「つらさや苦しさに負けずに、粘り強くやり遂げよりよい自分になる」とする心」を育てる学級における

指導の構想図



月	学級活動・体験的活動	道徳の時間	各教科の学習	日常指導・その他
	(学) 学級活動 (行) 学校・児童会行事 (体) 体験的な活動	勤勉・努力に関する主題を重点的に行う。	左記の道徳の時間にかかわりのある学習と関連を図る。 (体) 体験的な活動	子どもの実態に即し、継続的な指導を図る。
四月	○「3年生になって」(学) 新学年に対する希望をもとに生活のめあてをもって新学年を送ろうとする態度を養う。		○ 体育 「鉄棒運動」4月 自己の能力に適した課題を持ち、技ができるようになるまで粘り強く取り組む態度を養う。	○ 子どもたちがつらくてもやり遂げることができるように働きかけたり、努力しようとする子を教師が紹介したりする。
五月	○「係の活動をつくろう」(学) みんなのために必要な学級内の活動は何かを考え、その活動をやり遂げようとする態度を養う。		○ 算数「わり算」5月 除法の意味について理解し、それを用いて難しい問題にも挑戦する態度を養う。	
六月	○「縦割り掃除」(体) 通年 汚れている所を見つけ、隅々まできれいにする態度を養う。	◆「まけるものか」(6月) 勤勉・努力・忍耐 つらさや苦しさに負けずに、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。 ＜くじけない心＞ 「わたしたちの道徳」P23 目標に向かってがんばり続けるひけつ	○ 総合(体)5月 「おじいちゃんおばあちゃんこんにちは」 探究したい課題を見つけ、すすんで調べたりまとめたりする態度を養う。	○ 縦割り掃除などで最後までやり遂げた友達の行為を発表させ、みんなで認め合えるようにさせる。
七月	○「短縄・長縄大会」(体) 自分が決めた跳ぶ回数や技、チームで決めた跳ぶ回数に挑戦し、粘り強く取り組もうとする態度を養う。		○ 体育「マット運動」6月 自己の能力に適した課題を持ち、自分の力に合った技ができるように工夫し、粘り強く取り組む態度を養う。	
八月	○「2学期のめあてを決めよう」(学) 1学期を振り返り、新たなめあてを達成させようとする態度を養う。		○ 算数「あまりのあるわり算」7月 わり切れない場合の除法について理解し、新しい計算に最後まで取り組む態度を養う。	○ 教師が、普段の生活で自分がしなければならぬことをやり遂げようとする態度を養い、深めさせるようにする。
九月	○「係の活動をくふうしよう」(学) 係の活動を見直し、もっと工夫できることを考え、活動をやり遂げようとする態度を養う。	◆「すりばち村のだんだん畑」(9月) 勤勉・努力・忍耐 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。 ＜粘り強く取り組む心＞ 「わたしたちの道徳」P24 目標をもってチャレンジしてみよう	○「漢字・計算大会」(体)＜通年＞ 自分のめあてを立て、さらに努力しようとする態度を養う。	
十月	○「大運動会」(行) 団体競技・演技の練習で、自分の目標に向かって笑顔で粘り強くやり遂げようとする態度を養う。		○ 算数「かけ算の筆算」9月 乗法の計算について理解し、数が大きくなっても最後まで計算しようとする態度を養う。	○ 家庭との連携を密にしたり、他の職員と情報交換を密にしたりするなどし、児童一人一人の実態把握に努める。
十一月	○「ドッジボール大会」(体) 自分たちで決めた目標に向かって、チームで作戦を考えながら、粘り強く取り組もうとする態度を養う。		○ 体育「器械運動」9月 自己の能力に適した課題を持ち、自分に力に合った技をより美しくできるように努力する態度を養う。	
十二月	○「3学期のめあてを決めよう」(学) 2学期を振り返り、しあがの生活にめあてをもって送ろうとする態度を養う。	◆「すきなことから」(2月) 勤勉・努力・忍耐 自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。 ＜あきらめない心＞ 「わたしたちの道徳」P25 P26～29 人物コラム・きっとできる	○ 総合(体)「世界のみなさんこんにちは」 探究したい課題を見つけ、外国人の人とも進んでコミュニケーションをしようとする態度を養う。	
一月	○「もうすぐ4年生」(学) 学習や生活を振り返らせながら、しあがの生活を通して、どのような4年生になりたいか考え、向上しようとする態度を養う。		○ 算数「かけ算の筆算」2月 乗法の計算について理解し、正確さや速さなど自分のめあてを決め、達成しようとする態度を養う。	
二月			○ 国語「モチモチの木」3月 登場人物について考えたこと(勤勉・努力・忍耐)を交流し、弱い心に打ち勝とうとする心情を養う。	
三月				

IV 本時の指導構想

1 本時の指導

本時で目指す子どもの姿

これまでの自分を見つめ、登場人物の生き方から、つらさや苦しく、それを乗り越える心の強さは誰にもあることを理解し、自分自身もくじけず最後まで粘り強く頑張ろうとする心情を高める。

授業像

これまでの自分自身を見つめ、他の人の考えのよさから学びながら、さらによりよく生きるために何が必要か考え、実践しようとする心情を高める授業

将来の目標でも身近な目標でも自分がやろうと決めたことに対して、途中であきらめず取り組むことは大切である。自分で決めた目標を成し遂げたときの喜びは、満足感や成就感となり、さらなる活動の意欲にもつながる。しかし、辛抱強さに欠けた子どもたちが増えている現代で、弱い心に打ち勝ちやり抜こうとする心情を育てることは生きる力の基盤となることから、困難に直面してもくじけずに努力を続けていくことの大切さに気づかせることが必要であると考え。

そこで、このような価値意識を高めるために、以下のような手立てを講ずる。

〈手立て1：互いの考えの交流を促す発問〉

くじけない強い心を育むためには、誰にでもつらさや苦しさ、迷いを感じる弱い部分もあるという人間理解が不可欠である。弱い心を乗り越えることができた原動力を明らかにしていくことで、くじけずに粘り強く取り組むことの大切さが浮き彫りになると考える。そこで、学校を休んでいる時の清作の心情を、「学校に行く」という立場と「行きたくない」という立場で交流させたい。「学校に行く」という立場の子どもたちに、「行きたい気持ちがあっても行けないのはなぜか。」と問うことにより、学校を休むことへの罪悪感を感じつつ、足が向かない清作の心情を共感的に理解させたい。

次に、母親の励ましによって、自分の弱い心に気付いたときの心情を深めていく。「行きたい気持ちがあっても行けない理由」がこの弱い心に隠されている。清作の心の弱さを追求し、共感することで、「今までの自分ではだめだ」「今よりもっとよくなりたいたい」という思いがふくらんでくると考える。そして、「どんなことにもまけないようにするよ。」と、自分で決めた意思の強さを実感させることができるであろう。そこで、この誰もがもっている心の弱さをペアで交流することで、多様な考え方に気付かせていきたい。この場合、「…について話していたけど…がこの考えとちがいますね」や「同じようだけど…のことも考えているのですね」と整理し、考えの違いを明確にするようにしたい。

そして、十分弱い心が深まったところで、中心発問となる「清作が歯を食いしばりがんばることができたのはどうしてでしょうか。」と問う。この時も理由や根拠をはっきり言わせ、清作の気持ちを明確に理解できるようにし、話し合いを深めさせる。

〈手立て2：これまでの自分の行為や行為を支える心情の見つめ直し〉

よりよい生き方を目指そうとする心情を育てるためには、現在の自分のものの見方や考え方・感じ方を見つめさせ、「今のままでよいか」「もっとできそうなことはないか」という思いをもたせる必要がある。そして、話し合い後の「価値の主体化」の段階で、ねらいとする価値と照らし合わせて見つめさせることで、全校研究の「学びの自覚化」につなげていきたい。

そのために、本時では、事前にアンケート調査を行い、自分を見つめさせる。その結果を全体に示すことにより、自分の見つめ方を振り返ったり、友達の考えを知り共感的に理解し合える雰囲気を作ったりする。また、「価値の主体化」段階で、書く活動を取り入れ、今までの自分を見つめ、気付いたこと、新しく考えたことなどを書かせながら、自己の変容を促す。このことにより、自分自身のものの見方や考え方、感じ方をじっくりと見つめさせるとともに、事後の自分の生き方を考えさせたい。

V 本時の指導

1 ねらい

○ っらさや苦しさに負けないで、粘り強くやり遂げようとする心情を育てる。

2 展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き	研究にかかわる手立て	指導上の留意点
問題の把握	1 つらくて途中でやめてしまった経験を話し合う。 ○ 自分が取り組んでいたことを途中でやめてしまったことにどんなことがありますか。	<ul style="list-style-type: none"> 一人勉強で毎日、漢字練習をしようと始めたが、きれいに書けなくて、毎日続けることができていない。 逆上がりが得意になりたいと思って、練習し始めたが、うまくいかず練習を止めてしまった。 		<ul style="list-style-type: none"> 事前に途中であきらめてしまった経験やその時の気持ちについて事前にアンケートを取り、学級の実態を確認しながら価値への導入を図る。
	2 資料を読んで感想を発表し、話合いの方向をつかむ。 ○ 清作がしたことについて、どんなことが心に残りましたか。	<p>具体的な子どもの姿 心の弱さに負けてしまった自己の価値意識を想起している。(マイナスの価値意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の弱い心に気付いたところ。 歯を食いしばってがんばったところ。 		
問題の分析・追求	3 三日間も休んでしまった清作の気持ちについて話し合う。 ○ 三日間、林の中でむねをちくりといたませながら、清作はどんなことを考えていたでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> もうからかわれたくない。 お母さんが知ったら心配するし、悲しむだろうな。 このままでいいのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「なぜ、そのように考えたか」と理由や根拠をはっきり話させる。 ◇ 体験と結び付けながら心の弱さを共感的に捉えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> からかわれても歯を食いしばってがんばる清作の行為を支える心はどんな心情かをもとに本時のねらいへの方向付けを図る。 やけどで左手の指のことでからかわれる清作のつらい気持ちや母のこと、これからのことで心配で不安な気持ちでいっぱいになっている清作に共感させる。 負けそうになる弱い自分の心とどんなことにも負けないと誓う心の葛藤に気付かせる。
	4 母親の話聞いたときの清作の気持ちについて話し合う。 ○ 清作の気付いた弱い心とは、どんな心でしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> また、からかわれると逃げ出していた心。 心配するお母さんのことも考えずだまって休んでいた心 手が不自由なことを理由に、すぐあきらめてしまっていた心 何とかしようと努力や工夫をしなかった弱い自分の心 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ペアでの交流を通して、意見の共通性や違いをはっきりさせ、深まりの違いを捕捉し捉えさせる。 	
価値の感得・理解	5 歯を食いしばりがんばった清作の気持ちについて話し合う。 ◎ 清作が歯を食いしばりがんばることができたのはどうしてでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> お母さんの励ましがあつたから 負けるものかという強い気持ちだったから。 自分の弱い心に負けずに、やり通そうという気持ちだったから。 自分で決めたことを、くじけずにやり抜こうという気持ちになったから 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「主人公がそのようにできたのはどうしてでしょうか」と問い、清作の気持ちを明確に理解できるようにし、話合いを深めさせる。 ◇ 誰のどんな発言が心に残りましたか。(手立て1) 	<ul style="list-style-type: none"> くじけそうになりながらも歯を食いしばりがんばれた主人公の考えに気付かせる。 よりよい生き方を求めることへのあこがれを膨らませたい。 価値実現を図ったことの心地よさを味わわせることにより、実践意欲を高めていきたい。
	6 つらくても自分の心に負けないでやり遂げることについて話し合う。 ○ くじけずにがんばり続けたひけつにどんなことがありますか。 ○ くじけずに、粘り強くやり遂げることについて、新しく考えたことやこれからの生活に生かしたいことをふり返りましょう。	<p>具体的な子どもの姿 頑張り通すことができた喜びや充実感だけを表現したり、母親から励ましによるがんばりや、自分の弱い心に負けず、頑張り通したことが心地よさにつながったことを話し合っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄棒の練習で同じ時間に毎日取り組むことを決めて、続けたこと 計算が苦手だったから目標時間を決めて取り組み、計算スピードを上げていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 話合いで学んだ道徳的価値と、今までの自己を見つめ、気付いたこと、新しく考えたことなどを書かせながら、自己の変容を促す。(手立て2)(ワークシートに記入) ◇ 変容や進歩、新たに考えることができたことを書いている子どもを見取り、意図的に指名し活用していく。 	
価値の主体化		<ul style="list-style-type: none"> 足が痛くて嫌になった日もあつたけど毎日、鉄棒ができるようになりたいと思ってあきらめず繰り返し練習したらできるようになった。あきらめずに取り組んで自信がもてた。くじけない心はとても大切と思った。これからこの心を生かして、どんなことにもチャレンジしていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> わたしたちの道徳の「目標に向かってがんばり続けるひけつ」を書かせた上で交流し、友達へのひけつを捉えさせる。

3 評価

○ 本時のねらいとする価値について、真剣に考え、友達の考えにうなずきながら進んで考えようとしている。